

教員名	小風 秀雅 (KOKAZE Hidemasa)
所 属	人間文化研究科国際日本学専攻
学 位	文学博士 (1995 東京大学)
職 名	教授
URL/E-mail	kokaze@cc.ocha.ac.jp

## ◆研究キーワード

地域学 / 近代世界システム / 東アジア近代化 / 交通史 / 企業資料論

## ◆主要業績

総数 (12) 件

- ・小風秀雅・荒野泰典・貴志俊彦氏と共編著書『「東アジア」の時代性』溪水社、2005年6月、全242頁
- ・小風秀雅編著書『湘南の誕生』藤沢市教育委員会、2005年3月、全292頁
- ・「開港の世界史的意義」(『都市、文化、社会～市民文化形成支援研究序説～』Vol.2 (横浜市立大学), 17-25頁

## ◆研究内容

研究の柱は以下の4点である。

- (1) 19・20世紀における世界システムと日本 (欧米・アジアとの関係の中で国際的視野から日本の近代化を考察する)
- (2) 地域を歴史学・地理学・文化・人類学・社会学などの様々な視点から総合的に研究し、総合学としての地域学を構築する
- (3) 歴史社会システムを変化させる要因としての交通・情報の役割を、特に海運を中心に研究する
- (4) 近代の企業資料を中心とした企業・団体資料に関するアーカイブズ研究

1, 3については、従来の近代日本の国際化が日本史のなかからだけ論じられていたのに対して、海外の視点を導入して、日本の近代を世界環境のなかで比較史的に論ずることにより、日本史サイドからでは見えなかった種々の全くあらたな特徴を明らかにした点に特徴がある。2については、東アジアの地域史的研究から発展して、「湘南学」の立ち上げに着手している。

## ◆教育内容

学部では、日本近現代史全般に関わる講義・演習を行い、大学院においては、日本の近代化に関する研究を、海外の視点を導入して、世界環境のなかで比較史的に取り上げた演習を実施している。こうした方向は、海外の日本学との交流に刺激を受けたものであり、本学の博士後期課程の国際日本学専攻および比較日本学研究センターにおけるシンポジウム活動や国際研究交流活動の一環として展開しており、日本史専攻の学生が、日本研究を通じて、国際交流事業に参加し、自らの研究関心をグローバルな視野から位置づけることができる事に寄与している。

こうした成果をまとめた『近代日本と国際社会』(放送大学教育新興会、2004年3月、全200頁)は、放送大学で使用されている印刷教材であるが、従来の歴史教科書とは全く内容を異にするため、多くの受講生だけでなく本学の講義の参考書として使用するほか、一般読者からも受け入れられている。

## ◆共同研究例

・「近代日本と国際社会」の共同執筆(日本人5名、英国人1名)

## ◆将来の研究計画・研究の展望

東アジアにおける19世紀から20世紀にかけての近代化を、世界史の視野の中で考察する方向を継続しつつ、地域学的観点を加味して、大小さまざまな存在する日本を含む東アジアの諸地域を、学際的な手法を用いて、多元的、総合的に研究し、国家概念を超えて(相対化して)成立する地域の歴史性について、またその特質の時代的变化について、分析し、新たな日本学を世界に発信していきたい。

## ◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・地域概念の成立と展開(地域学として)
- ・東アジアの近代化と19・20世紀世界システムの成立
- ・日本とは何か(比較文化史的な国際的日本研究)

## ◆受験生等へのメッセージ

広い世界に出てみると、自分が属していた社会や集団がいかに特殊なものであるか、ということを実感することができます。

日本に住んでいるからといって日本のことを知っていることにはなりません。与えられた知識や情報によるだけでは、その地域や社会・文化のことを理解しているとも言えません。知りたい、という意欲に支えられ、自分で考える、ということがなければ、本当に日本や世界を理解することにはならないのです。

事象を与えられた情報からだけでなく、自分の頭で理解し、分析することができるようになることが、大学で勉強することの大きな目的のひとつです。疑い、自分で納得できる回答を自分の力で引き出すためには、自由な精神で、物事を相対的、総合的に考える姿勢が必要です。

歴史学も、これまで教わってきた歴史を疑う事から始めれば、全く新しい日本や世界と出会うことができるようになるでしょう。そういう知的興奮を一緒に味わってみませんか。

